

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270400423		
法人名	(有)木村商事		
事業所名	グループホーム 海望苑		
所在地	静岡県伊東市大室山高原1-241		
自己評価作成日	平成23年10月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 しずおか創造ネット		
所在地	静岡県静岡市葵区千代田3丁目11番43-6号		
訪問調査日	平成23年11月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様個々の生活ペースに合わせた支援を行っています。ここには、ゆっくりと時間が流れる環境と、自然にも恵まれた生活環境があります。
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

伊豆高原の桜並木を通り、小道に入ると保養施設から1ユニットの介護施設に代った「グループホーム海望苑」があります。紅葉・金木犀の樹木の庭にはリスや孔雀が訪れ利用者を喜ばせてくれます。中央の階段には昇降機が設えてありますが、段差もある環境の中”注意しながら自力で”という生活が生まれ、経過と共に体力の改善に繋がる事例がある事も特徴になっています。法人代表者の近隣住民との支え合いという意識の高さが今後防災面でも活かされていくことでしょう。現在は少人数の入居者であり、一つの家族のような目の行き届く支援や言葉掛けが見られ、利用者の安心した表情が大変印象的です。
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に勉強会にて理解できる方法を工夫している。	わかり易い言葉で理念を掲げ職員には常に実践の現場で意識づけ共有を図っています。今年度より「介護者と入居者お互いの満足感・充実感」の文言を追加し、実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ゴミステーションの掃除など、身近なことに参加	5年間の経過でグループホームの存在の理解も深まり、別荘ではなく居住地として暮らす近隣住民と顔なじみの関係が築かれるようになりました。家庭菜園の野菜を戴く嬉しい付き合いもできてきました。	近隣から通う職員が加わったことで、ますます地域の方々との交流が増えることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を多く開催し、理解して頂くような内容をとっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は2カ月に1回を目標に運営推進会議を開催しています。	市担当者、地域代表、包括職員、そして職員も多く出席し、今年度は4回開催しています。会議録からは、大震災の経験を活かし、地域の避難所としての役割を伝え、地域との関わりを広報する試みがありました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	申し込みの依頼などがある時に連絡をとり合うくらい。	市担当者は「運営推進会議」に出席しています。その際ホームの現状や取り組みを伝えていきます。避難場所の問い合わせを通して、防災訓練等の活動にも生かしました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンス・勉強会にて指導、今年度は職員から報告ありません。	現在まで身体拘束に至る経験は無く”身体拘束をせず行うケア”研修を行ないゼロ宣言もしています。2階にある玄関の鍵は、開けるとチャイムが鳴ることで職員が安全な対応をはかっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度はスピーチロックに力を入れています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	カンファレンスにて自立支援の方法、具体的に話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明方法。話し方、言葉の使い方など基本的なことから始めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本人の気持ちが表示するような環境(職員との信頼関係)づくりを行なっている。	利用者本人との会話があちこちの場面で見られ、信頼関係が築かれている風景がありました。家族からも一人一人にあったきめ細かい対応や運営を喜ぶ言葉がありました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス後運営会議を必ず開催している。急ぐ時には管理者に直接相談。	月1回の運営会議・カンファレンスには管理者・ケアマネが必ず出席し、管理者は数日ホームで過ごします。現場職員の責任感や判断する力を大切にしたい取り組みが見られます。電話等の連絡で、運営や入居者の情報も共有しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	役割を持ち、責任感が出るように、勤務調整は職員のみに行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格習得時の勤務調整。指示のみにて考え・行動ができるように指導中。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会に参加後、研修内容が他の職員も周知できるように勉強会で発表する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションの時間を多くとり信頼関係を築くことから始め、言える環境をつくっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	1回/月の海望苑便りにて、日常生活を報告。面談時などでは、必ず確認する様になっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員に判断する力をつけ、適切なサービスができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人をよく理解できるように情報を集める(日々の生活の中で本を知るようにしている)		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設の便りにて毎月様子を知らせたり、面会時には気がついたことを伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会・外出にて行っている。	過ごしやすい季節には、家族の協力によって馴染みの床屋さんや自宅に帰ることもあります。また管理者自らの運転で 観光地の立地を生かした外出や外食に出掛け、職員との楽しい時間を設けています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自分の生活のペースを基本に、広間にて一緒に過ごす時間をつくっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了時、相談に応じることを伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中での会話にて、本人の気持ち、希望が、くみ取れるように努めている。	少人数の利用者であるため、職員との関わりも大変密になっており、個々の利用者を全員が良く理解し見守っています。申し送りノートや介護記録・気づきを記録しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族に確認したり、本人に直接聞いたりしながらカンファレンスを行なう。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員一人ひとりの情報などにて対応中。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の変化・その時の対応など、介護記録・職員の情報を主としている。	管理者・ケアマネとほぼ全員の職員が参加するカンファレンスで、医療面・体調・食事量・外出等々の情報や気づき・家族の要望等を検討し、多方面の目線で介護計画が作られています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	上記と同様、カンファレンスにてまとめる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	管理者に報告して、サービス内容を検討し実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の掃除当番など、参加しやすいことから行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に入所前のかかりつけ医を継続、訪問も利用中。	入居前からのかかりつけ医への家族付き添い受診にはデータの書類を作成し、受診支援をしています。協力医の往診が月1回、同訪問看護師の週1回の訪問があり、24時間連絡も可能になっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化時は連絡にて相談。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には様子伺いをこまめに行ない、ソーシャルワーカーとも話し合いの場をつくる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の希望を聞く時間をつくり、どこまで支援できるか説明、訪問を利用するようにしている。	重度化・看取りについては、「終末のしおり」の書面で利用者家族の意思を確認する手段をとっています。医療面の連携が必要になった場合はかかりつけ医から協力医に変更により支援したケースもありました。	現場職員への支援のために、看取り場面に至るまでの看護面の研修や、介護スタッフの心のケアも研修内容に加えることに期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル作成、見直し。訪問看護からの指導もあり。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練・マニュアル作成。町内会長との連絡。	10月に町内会長・近隣住民に知らせ「夜間の火災訓練」を通報・招集・誘導を実戦さながらに行ない、この経験から課題も確認しています。また地域の方々の避難所としても考え進めています。	発電機の設置を良い機会と捉え、地域の避難拠点として地域の方と共に活動が進むことに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接客(ビジネスマナー)の勉強会。	利用者一人ひとりの個性や思いを十分把握し、穏やかな言葉のやり取りでプライドやプライバシーを損ねる言動はありませんでした。個人情報・記録等の保管は、事務所で管理されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションの中で聞き出せるように働きかけている。決定できるような問いかけ。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の生活リズムのに合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	すべてにおいて本人が決めるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の準備はなかなかできない。簡単なことには参加できるようにしている。	現在は利用者が男性の為、台所の仕事は殆どしていません。職員と共に一つのテーブルで、ゆっくりと食事を取られています。1週間ごとのメニュー作りは 好みを知り尽くした職員が担当し好評です。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表を作成。食事量・水分量の記録。人によってはin・outも行なう。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立以外の方には介助もあり。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツからリハビリパンツになった人もいる。	少人数の為利用者の動きは職員も把握しやすく、排泄自立の方は 職員の提案で「トイレ記録」を自ら記入する試みもありました。介助が必要な方にもさりげない声掛けをし、自らができるような工夫や支援がありました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立に工夫(食材など) 運動・水分など		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調・気温・必ず本人に確認、強制はない。	保養所時代に使っていた大きなタイルの浴槽の横に、手摺り付の個浴槽を設け、使っています。冬場は室内を暖める配慮もあります。現在は週2～3回希望に添った時間で実施していました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後の昼寝の時間。それ以外にも本人が休みたい時には自由にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は必ず目を通す。新しくすりは伝達。訪問看護にも相談。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月1回の外出。行事への参加など。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族には依頼している。本人が希望しているか確認し決定。	近所への散歩は利用者の体調・気候に合わせて声掛けや対応したをしています。屋上からは相模湾が望め、利用者の大好きな場所でもあります。テラスにての食事の工夫も写真で確認しました。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望時に応じて。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節・気温に応じて対応。テーブルなどに庭の花をかざったりしている。	樹木が植えられた庭が見える1階の食堂兼居間が皆さんの寛げる空間になっています。大きなストーブの近くでは ゆっくりとテレビを見て過ごす利用者が居て、どこかの家庭を彷彿される雰囲気がありました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人の居場所ができるように座るイスなどで工夫。施設内はフリー。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に依頼し、届けて頂いている。	居室は広さにより料金の違いがあり、移動等の動きも検討し、家族・本人が選択しています。その居室をその人らしい部屋になるよう家族の協力を得て作り ゆっくり過ごせる「自分の部屋」がありました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ADLIに合わせ、環境の整備。		